



精かな表情で竹刀を握る内田さん

輝いています

全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 出場

ひと

うちだ こたろう
内田 虎太郎 さん

たゆまぬ努力で頂点を

半 世紀近くの伝統を誇る中央2丁目の剣道道場・竹紫館。気迫あふれるかけ声が響き渡るこの場所です。稽古に励む小学5年生の内田虎太郎さん(10歳・中央2丁目)は、7月の全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の県予選で、6年生も出場するなか3位まで上り詰め、9月の全国大会に出場する県代表チームの一員に選ばれました。

剣道有段者の両親の下で育ち、小学校入学と同時に父親が指導者の一人として教える竹紫館の門をたたくと、当初から負けず嫌いだっただ内田さんは3か月後の蕨市剣道大会・小学生基本の部で早くも優勝。防具を着けて本格的な

稽古を始める2年生になると、通常の稽古の終了後に追加の稽古も行い、めきめきと力をつけていき、市内の大会で幾度も優勝を飾りました。

現在、平日は小学生の稽古に引き続き中学生・一般の稽古にも参加し、土日には練習試合や大会で遠征するなど、正に剣道漬けの日々。「誰にも負けないくらいたくさん稽古を積んでいきます」と話す内田さんは、仲間とともに切磋琢磨するかけがえのない時間を過ごすなかで、揺るぎない自信を得ています。

そんな内田さんの最大の持ち味は「集中力と気合い」。2分間で決着がつかず延長戦となった7月の県予選の準々決勝では、終始気を抜かず相手の動きを粘り強く見極め、約10分間の我慢比べの末、相手が小手を狙ってきた際の一瞬の隙をつき『面!!』。会心の一本が決まって、みごと勝利。それまで県予選で何度も辛酸をなめてきた内田さんにとって、日頃の鍛錬が報われた最高の瞬間でした。

今月16日はいよいよ全国大会。常に上を目指し、たゆまぬ努力を続けてきた内田さんの目標は「優勝」です。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

— No.28 —



暁翠筆「百福図」
絹本・墨画彩色 軸装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

掛軸の中に、1000人もの福女(お多福、おかめ)たちが、かるた取りや囲碁をする姿が描かれています。この絵は暁斎の娘の河鍋暁翠(1868~1935)が描きました。福女の中には、にらめっこや腕相撲をする者も見られ、父親の暁斎譲りのユーモラスな戯画も得意とした暁翠ならではの作品です。

なお、暁翠はこの絵とよく似た構図の『百福図』を数点描いていますので、人気の画題だったのでしよう。

河鍋暁斎記念美術館 9月1日(土)~10月24日(水)
「暁翠生誕150年記念 暁翠のお手本・画稿」展
同時開催「立原位貴 復刻版画」展

開館 = 午前10時~午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日~末日
ところ = 南町 4-36-4
入館料 = 一般600円
中学生~大学生500円
小学生以下300円
(20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館(☎441・9780)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ 暁斎
天保2年(1831)
~明治22年(1889)